

## 令和6年度第2回宮崎県スポーツ推進審議会 議事録

### I 日程等

- 1 日 時：令和7年2月6日（木）
- 2 会 場：県庁本館講堂
- 3 出席委員：春山 豪志 委員、川野 美香子 委員、木下 理 委員、  
金川 敏洋 委員、岡本 真奈美 委員、横山 幸子 委員、  
谷口 行孝 委員、玉城 美千子 委員、松元 春香 委員、  
竹元 明子 委員、山本 順之 委員、宮田 若奈 委員、  
遠坂 有太郎 委員、三好 佳奈芽 委員 (14名)

### II 概要

#### 1 副教育長あいさつ

#### 2 議長選出

議長：春山 豪志 委員

#### 3 議事

##### (1) 説明

- 本審議会について
- 宮崎国スポ・障スポ大会開催に向けた進捗状況について
  - ・ 宮崎国スポ・障スポ局 総務企画課
  - ・ 宮崎国スポ・障スポ局 競技力向上推進課
  - ・ 福祉保健部 障がい福祉課

発言者	発 言 内 容
議長	○ 事務局の説明について、質問等がないか。
委員	○ 佐賀国スポ・障スポの結果がなかなか厳しい状況であった。過去を見ると、福井県や茨城県など地方都市でも開催地が1位を取っている例もある。今回の宮崎県の結果の課題を教えて欲しい。
議長	○ 本大会の結果の分析については、また協議の中で説明をしていきたいのでここでの回答は控える。
委員	○ 新たにできた県体育館や山之口の陸上競技場は、中体連や高体連主催の大会、障がい者スポーツ等の大会でも使用可能なのか。
事務局	○ ジュニアからシニアの方まで、県民幅広く使用ができるようにしている。また、プロチームのキャンプ等も誘致できることから、県外また県内利用者との調整を行いながら、両輪で稼働できる施設にしていく。また、都城市に建てられていることから、今後は南九州の拠点としてもスポーツの振興に大きく寄与する施設にしていきたいと考えている。

(2) 協議

宮崎国スポ・障スポ大会開催に向けた各分野の視点からの関わりについて

発言者	発言内容
議長	○ 各分野の視点から、開催に向けた様々な御意見をいただきたい。まずは、先ほどの質問の回答として、佐賀国スポの課題をご回答いただく。
事務局	○ ここ3大会ほどは、開催県が天皇杯を獲得できていない現状がある。しかし、平成30年の福井県、そして令和元年の茨城県につきましては、天皇杯を獲得している。 要因の一つは、成年少年の計画的強化にある。特に福井県については、強力な選手の確保等も行っており、近年では非常に高い得点を獲得し上位にいる。 そのような中、コロナ感染症の影響があり、令和2年に開催を予定していた鹿児島大会は延期、令和3年に開催を予定していた三重大会は中止ということで、鹿児島県の特別大会が組み込まれたことによる開催時期のずれが生じた。 それによって、本県においても、本年度の佐賀県大会に向け強化を図った少年選手のターゲットが1年ずれ、強化計画が大きく狂ってしまったということが原因のひとつと考えられる。現在強化を図っているターゲットエイジは、まだ国スポへの参加はないため、結果として出るのはもう少し時間がかかる可能性がある。 ○ また、全体的な競技の底上げが至らなかったという部分も大きな要因として分析をしている。全ての競技において入賞できる力をつけていくためにも、全体的な競技力の底上げを強力に推し進めないといけない。そのためにも、各競技団体の課題に応じて、有力選手の確保や、そのための企業とのマッチング、ふるさと選手の強力な関与等の対策を進めている。
委員	○ 国スポ、障スポへの関わりについて、総合型地域スポーツクラブとしても、ジュニア育成の面で競技力向上に関わっていきたいと考えている。そのような中、本クラブの目的としては「生涯スポーツ」の意識が強いため、プレーヤーよりも、「見る」や「支える」という関わり方が多いと思う。また、本競技だけでなく、デモンストレーション競技にも多くのクラブが参加している。指導者の中には、中級パラスポーツ指導員の資格をとるなど、幅広い関わり方を目指している人が多い。クラブの会員が子ども、もしくは高齢者という状況が多く見られるため、応援やサポートといった協力体制の構築に努めていくことが我々の役割として大きいように感じている。
委員	○ トレーナー目線から考えると、競技力の向上にはセルフコンディショニングの不足、食事の管理不足、睡眠不足などが根本にあるように感じる。色々な選手を見る中で、競技力は向上しているが、体の管理の部分で大きな課題があるように感じる。

	<p>試合前の食事管理への知識不足や睡眠不足、練習や大会後のストレッチの不足など、体の管理の面において指導や知識が必要だと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 県内でも、様々なトップアスリートを招聘するアドバイザー事業を行っているが、もう少し長い期間で実施すべきだと思う。7日間もしくは10日間など、長い期間の合宿等において、トップアスリートの技術はもちろん、食事やセルフコンディショニングという部分でも指導していくことが必要だと思う。</li> <li>○ 観光協会等とも連携しながら、県内だけでなく県外への遠征や地域からの支援も競技力の向上につながると思う。そのためにも、もっと強化費を上げる必要があるのではないか。</li> <li>○ 国スポ・障スポの機運醸成をさらに高めていく必要がある。さらに地域に周知させていくためにも、出場する選手ののぼり旗を作成し、宮崎市内もしくは競技開催地に設置するなど、雰囲気づくりも重要になってくるように思う。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 国スポの強化を進める上で、「本当に1位でないといけないのか」という部分もしっかり考えていく必要がある。はたして、ターゲットだけを強化することが正しいのか、スポーツを指導していく上で、強化と育成は両輪でなくてはならないと考える。そこがスポーツの振興や普及につながると思う。もちろん、強化をする上で、選手に対し強化費を使うと思うが、トップ以外にも、多くのスポーツをやっている子どもたちや選手はいるわけであって、トップの強化のみに考えがいつてしまっはよくない。</li> <li>○ 県外の有力選手の確保も一つの手だとは思いますが、宮崎県出身の選手でも優秀な選手は非常に多い。まずは県外流出を防ぐ取り組みや、郷土愛を育む指導も必要ではないか。そういった意味ではスポーツ振興やスポーツ文化を、早い段階から教えていく場をつくっていく必要がある。今、中学校の部活動が地域移行するという動きの中で、小学校の体育からスポーツへの価値観について見直しをしていく必要がある。宮崎県は小学校の体育専科採用も行っている。そういったことから中長期的にやっていかなければならない。</li> <li>○ 国スポ・障スポに関して、大学教員の立場からすると、積極的に大学生が関われる大会にしてほしい。ちょうど開催時期は、大学の後期授業の開始時期である。現在、大学では、授業開始日を遅らせてでも、本大会に関わらせ、ボランティアや役員といったその経験が大きな財産になるという話をしている。ぜひ、県や教育委員会から要請をいただければ、学生を派遣し、様々な協力体制を築いていきたい。トレーナーやレスキューなど、様々な関わり方ができると考えている。このような機会は、学生にとっても大変意義深い社会貢献の機会となる。</li> </ul>

<p>委員</p>	<p>○ 現代社会で運動嫌いやスポーツ離れが進む中で、宮崎県の中学生がどれだけ国スポ・障スポのことを知っているだろうか。県中学校体育連盟では、競技力向上検討委員会を設置し、今年度は国スポ・障スポを様々な事業に落とし込んできた。事業の一つとして、ある中学校をモデルとし、体育理論領域での研究授業を実施した。その中で、国スポの歴史や関わり方、宮崎県の取り組み状況等を授業で実施し、子どもたちは非常に興味をもって取り組んでいた。それと同時に「国スポ・障スポについて、本当になにも知らないんだ」ということも同時に痛感した。</p> <p>また、国スポでは同世代の中学生も活躍し、メダルを獲得していることをそこで知り、身近に感じているようだった。これから、こういった子どもたちへの周知もとても大切だと考える。</p> <p>○ 天皇杯皇后杯獲得のためには、中学生の進路というのが大きく関わり、非常に大きな分岐点になると捉えている。本人の将来や目標、あるいは保護者の考えというのは当然尊重されるべきであり、デリケートな部分だとは思いますが、スポーツ環境が競技力向上につながることは当たり前のことである。本県でも、スポーツにおける県外流出が課題である。現在行われているワールドアスリート発掘事業、また各競技でのターゲットエイジ事業など、さらに充実させ活用していくべきである。</p>
<p>委員</p>	<p>○ アスレチックトレーナーパラトレーナー部会の代表をしている。国スポと障スポとの医療体制には違いがあり、国スポはトレーナーとして本部への派遣、各競技団体への専属トレーナー配置など、ほぼ成功しているような状態である。しかし、障がい者スポーツは福祉というところの視点が強いもので、各県や競技団体への配置がほぼできていないという現状がある。そのため、サポート方法としては、コンディショニングブースが設けられ、県の理学療法士協会等に派遣依頼をかけてサポートを行うという流れになっている。この派遣依頼は、完全ボランティアであり3日間拘束される。佐賀障スポの視察では、スポーツ庁委託事業によりスタッフが派遣されているということだった。全16会場、約100～160名に医療スタッフが従事していた。全体の統括者に話を聞いたところ、今の現代に無償ボランティアではなかなかスタッフも集まらないのが現状のようだ。そのため、大会ギリギリで人が集まり、テーピングの指導やスポーツマッサージ、特性的な疾患の対処など、共有が不十分なまま大会を迎えたとのことだった。このような現状を見ると、2年後の宮崎大会も同じ状況になりかねない。現在、会長や副会長とも協議を重ねているが、ボランティアで依頼する時代を見直す時期にあると考えている。選手だけでなくサポートする側の体制づくりにもしっかりと予算をつけていく必要がある。</p>

委員	<p>○ 役員要請やボランティア要請について、現段階でも様々な調整を行っていると思われるが、気がかりなのは、本番終わってからの活用である。大会終了後も、継続して様々な大会やイベントにおいてボランティアを続けていけるような体制が必要ではないか。支えるっていう立場は非常に貴重な存在。障がい者スポーツにおいても競技スポーツにおいても、そういう人々の機運をずっと維持していくことが重要になってくる。</p>
委員	<p>○ スポーツ推進委員としては、楽しむスポーツというものを大きく広げているところである。本大会に向けては、スタッフボランティアとしての関わりをしていきたい。また、公開競技を市町村で実施するところがあるため、そちらの協力をしていきたい。</p> <p>先ほどの話でもあったように、大会終了後のボランティアの活用はとても重要だと考える。</p>
委員	<p>○ 私も県の社協でボランティアセンターの取り組みをやっているが、だんだん高齢化しており、ボランティア人材が減少している。このような大きなイベントをきっかけにまたボランティアの機運が高まるといいなと思う。特に駅や港とでのおもてなし、また手話通訳など、ぜひ若い方にも参画していただきたい。</p> <p>○ 私自身、前回の国体で集団演技や県歌の練習などもした。その経験は今でもしっかり覚えている。やはりこういうイベントには大きな影響力がある。これを機会にぜひボランティアの取り組みが広がる良い。</p>
委員	<p>○ おもてなしという視点で考えると、国スポ・障スポのテーマソングを演奏しながら、ビラを配るなど、広告活動ができると感じた。</p> <p>○ 市教育委員という立場では、近隣の小中学生、保育園も含め、子どもたちが開会式を盛り上げる、旗を持ちお出迎えするなど、競技場周辺で何かできないか。宮崎の郷土芸能を披露する場をつくっても良いかもしれない。</p> <p>また、子どもたちに令和7年度の4月からのこの1年間で、より本大会を身近に感じてもらうためにも、山之口の陸上競技場へ視察遠足に行ったり、イベントをやるのも一つの手かなと思う。カウントダウンボードなども、とても効果的に感じる。</p>
委員	<p>○ 子どもとの関わりの視点で、ひなたの力のダンス披露や体操はとても興味関心を向上させるものだと感じた。私自身もイベントで、ダンスや体操体験をしたが、いろいろな方たちが楽しそうに取り組んでおり、面白かったという声が多く聞こえた。体験の場が広がるとさらに様々な世代を巻き込むことができる。またさらに選手と触れ合う機会などがあると、さらに応援したいという気持ちも高まってくるのではないかな。</p> <p>○ 指導者という立場では、コンディショニング的などが課</p>

	<p>題かなと感じた。自分たちの体のことを知らない子どもたちが増えてきている。体育の授業のみならず、地元の運動教室やイベント等で県とコラボしながらできると、楽しみながら体力の向上も図れるのではないかな。</p>
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 国スポ・障スポ局よりダンスのDVDをいただいた。とても親しみやすい曲で、とても気持ちも高まる。ぜひ、このような曲などが、一人一人の県民の方々に触れていただくよう広く周知できることを望んでいる。テレビ番組等で視聴者の投稿とかあるように、このダンスに関してもコンテストや披露の場があると、企業や小中学生も関心をもつのではないかな。</li> <li>○ 食における栄養については、私も非常に危惧している。知識不足ももちろんある。職域を通して家庭科の先生やスポーツ医療に携わる先生方も啓発しているが、食材料費の高騰により、病院や寮でも献立ができない状況もあり、非常に苦慮している。根本からの食事や睡眠の重要性を理解していくことが重要である。</li> <li>○ ホームページを拝見したときに観光情報というところに「グルメ」にリンクがある。食とスポーツは非常に関連性も強いので、スポーツ栄養の観点でもぜひもっと前面に出してほしい。スポーツ王国宮崎を売りに出すために、栄養食の力などといったコーナーをつくり、宮崎の特産物でパワーをつけるような宣伝もできるのではないかな。</li> </ul>
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 保育施設が何ができるかなということを考えたとき、保育施設宛にもDVDを送っていただき、子どもたちで練習をした。イベントにおいて、様々な保育施設、小学校、中学校、高校のダンスをされる方たちと一緒にオープニングダンスをできるというなと考えていた。</li> <li>○ 子どもたちが、実際に本大会で選手を応援し、旗を振っている姿を想像すると、それは「ごっこ遊び」の延長であり一般的にはプロジェクト保育と言われる。年長さんぐらいになると、いろいろなものをプロジェクトとして作り上げたりすることが得意になってくる。国スポごっことして、タブレットで色々なことを調べたり、競技を真似してみたり、お兄ちゃん、お姉ちゃんに話を聞くなど幼児期からスポーツに関心をもつことはとても重要だと考える。</li> <li>○ イベントを通じて地域と連携することも重要であり、子どもたちが夢を持ちながら、将来スポーツをしたい、いつか出てみたい、という気持ちにしていくことも、この大会では可能ではないかな。保護者や子どもにとっての有意義なイベントになることで、郷土愛にもつながる。様々な団体で連携しながら企画し、保育施設と地域がつながる大会にしてほしい。今後も、保育施設という立場で、できることがあればぜひ協力していきたい。</li> </ul>

委員	<p>○ 競技力向上という面で、中学校の教員ができることは本当に限られている。目の前の生徒に対し、体のケアや食事の管理、プレーや技術以外に様々なことを伝えていかなければいけない立場にある。そのためには、各競技の担当、または代表者に対し、専門的な指導のできる立場の方から直接話を聞く場を設定していかなければ、指導者側も本気になっていかない。特に、若い世代の指導者に対し、このような審議会で出た意見をしっかりと伝えていくことが重要である。やはり、実際に携わる指導者の意識の改革が一番重要になってくる。</p>
委員	<p>○ 書面上だけの討論ではなく実行につながられるかが重要。各競技団体も含め、今回の国スポがきっかけとなり、継続して発展していけるような体制づくりができるとうい。</p> <p>○ オリンピックやワールドカップでは、各国を応援する学校があつたりする。国スポで他県の選手団が来るのであれば、そこを学校や幼稚園、保育園などが取り上げ、みんなで応援するというのも良いのではないか。他県を知るといのも教育効果が大きいと思う。宮崎県ならではのおもてなし方法であり、盛り上がるのではないか。</p>
委員	<p>○ ラジオ番組で、世界大会や日本選手権レベルの選手ではなく、ひとりの社会人アスリートの特集していた。そのアスリートは、その放送依頼、会社の同僚や知人から多くの連絡がきたようで、モチベーションアップにも大きくつながったとのこと。マスコミやメディアの力は非常に大きい。ぜひ、国スポ・障スポに関わる方々、特に小学校や中学校、地域指導者の方をピックアップしていただき、注目されるきっかけづくりをしていただきたい。</p>
委員	<p>○ 競技場周辺の飲食店の充実等も今後の大きな課題になってくると思う。大会成功は観光面からも支援をしていかななくてはいけないと思う。</p>
議長	<p>貴重な御意見、ありがとうございました。</p>

### 3 閉会